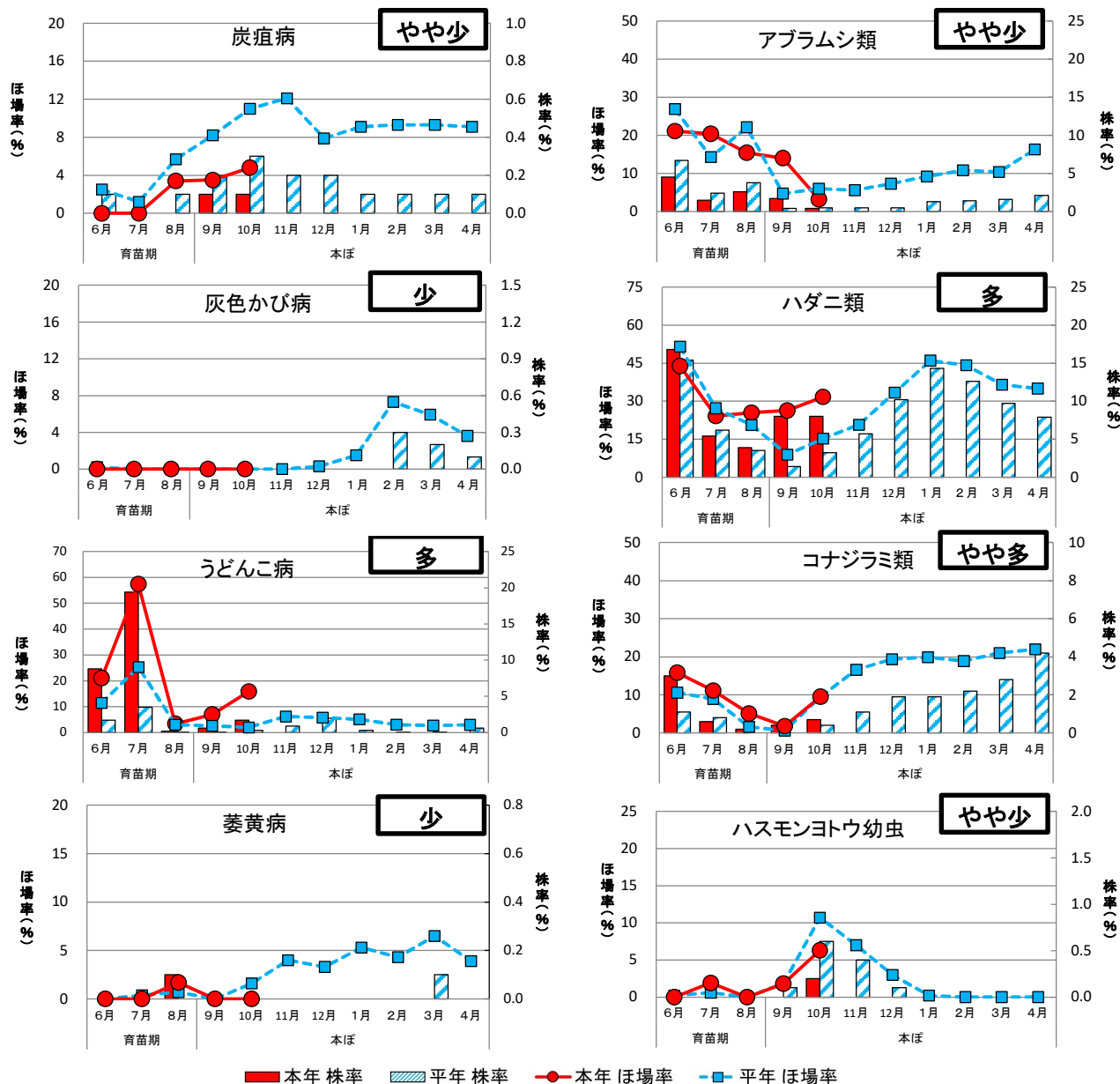


いちご病害虫情報第5号（10月）

令和8（2026）年10月16日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数：63 か所】



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%)：発生株数／調査ほ場数×25株 ※ほ場率(%)：発生が確認されたほ場数／調査ほ場数

■ 今月の防除ポイント

ー アザミウマ類の対策 ー

野外のアザミウマ類は、11月頃まで活発に活動します。10月中旬までに開花が進んだほ場では、野外からのアザミウマ類の侵入が多くなる傾向があります。冬季の発生は、ハウス内に残存した個体に由来するため、ほ場をよく観察し、適切な防除を行いましょう。

- 1 ハウス内外の除草を行い、ハウス内に不要な植物を置かない。
- 2 花を注意深く観察し、発生を認めた場合はマッチ乳剤（1:15）を散布する。観察した花の1割以上にアザミウマ類が見られた場合には、スピノエース顆粒水和剤（1:5）等を散布する。なお、薬剤はミツバチ等の花粉媒介昆虫や天敵への影響日数に注意する。
- 3 薬剤感受性の低下を防ぐために、必ず RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

■ 今月のトピックス ハダニ類

ハダニ類（写真1）は、県内の促成栽培いちごにおいて、親株から栽培終了時まで周年で発生し、多発すると株の生育不良や果実の品質低下などの被害が生じます。

ハダニ類は化学農薬に対する感受性が低下しやすいため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布することが重要です。

天敵製剤（写真2）や気門封鎖剤は、薬剤感受性が低下したハダニ類に対しても有効であり、化学農薬の散布回数を大幅に削減できるため、積極的に活用しましょう。

天敵製剤(カブリダニ類)の使用にあたって

- 天敵製剤は、ハダニ類の発生前から発生初期に放飼する。
- ハダニ類の発生が多い場合は、放飼前に気門封鎖剤や天敵への影響が少ない薬剤を使用し、ハダニ類の密度を低下させる。
- 放飼後はハウス内をこまめに見回り、天敵が定着・増殖していることを確認する。

気門封鎖剤(物理的防除剤)の使用にあたって

- 気門封鎖剤は、ハダニ類に直接かからなければ十分な効果が得られないため、薬液が葉裏までかかるよう丁寧に散布する。
- 多くの気門封鎖剤には殺卵効果が無いため、卵から孵化した幼虫や成虫を対象に、5～7日間隔で複数回散布する。



写真1 被害葉



写真2 ナミハダニ雌成虫とチリカブリダニ成虫

ナミハダニ
いちごで主要種
(約0.5mm)

チリカブリダニ
ハダニ類の天敵
光沢のあるしずく形
(約0.5mm)

詳細は、農業総合研究センター防除課（Tel 028-665-1244）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「栃木県農政部 X(@tochigi_nousei)」、

[農業総合研究センターホームページ](#)でもご覧いただけます。

